

外用殺菌消毒剤

500mL

日本薬局方

# ベンザルコニウム塩化物液

販売名  
塩化ベンザルコニウム液  
(10W/v%)「カナダ」

(逆性石ケン液)

発売元

カナダ薬品工業株式会社

大阪市淀川区田川北1-6-19

製造販売元

株式会社フチミ製薬所

大阪市東成区中本2丁目9番9号



JAN



GSI-RSS



2010年4月作成(第1版)

|            |                  |
|------------|------------------|
| 日本標準商品分類番号 | 872616.877324    |
| 承認番号       | 15700AMZ00744000 |
| 薬価収載       | 1982年7月          |
| 販売開始       | 1982年7月          |
| 再評価結果      | 1982年8月          |

貯法：気密容器

## 【組成・性状】

組成：100mL中 日局ベンザルコニウム塩化物 10g 含有  
性状：本剤は無色～淡黄色澄明の液で、特異なおいがある。  
本剤は振ると強く泡立つ。

## 【効能・効果】【用法・用量】

本剤はベンザルコニウム塩化物として、下記の濃度となるよう希釈して使用する。

| 効能・効果                            | 用法・用量   |
|----------------------------------|---|
| 手指・皮膚の消毒                         | 通常石けんで十分に洗浄し、水で石けん分を十分に洗い落とし、0.05～0.1% (本剤の100～200倍) 溶液に浸して洗い、滅菌ガーゼあるいは布片で拭拭する。術前の手洗いの場合は、5～10分間ブラッシングする。 |
| 手術部位(手術野)の皮膚の消毒                  | 手術前局所皮膚面を0.1% (本剤の100倍) 溶液で、5分間洗い、その後0.2% (本剤の50倍) 溶液を塗布する。   |
| 手術部位(手術野)の粘膜の消毒<br>皮膚・粘膜の創傷部位の消毒 | 0.01～0.025% (本剤の400～1000倍) 溶液を用いる。  |
| 感染皮膚面の消毒                         | 0.01% (本剤の1000倍) 溶液を用いる。  |
| 医療機器の消毒                          | 0.1% (本剤の100倍) 溶液に10分間浸漬するか、または厳密に消毒する際は、器具を予め2%炭酸ナトリウム水溶液で洗い、その後0.1% (本剤の100倍) 溶液中で15分間煮沸する。             |
| 手術室・病室・家具・器具・物品などの消毒             | 0.05～0.2% (本剤の50～200倍) 溶液を布片で塗布・拭拭するか、または噴霧する。  |
| 膿洗浄                              | 0.02～0.05% (本剤の200～500倍) 溶液を用いる。  |
| 結膜囊の洗浄・消毒                        | 0.01～0.05% (本剤の200～1000倍) 溶液を用いる。   |

## 【使用上の注意】

### 1. 重要な基本的注意

- (1) 本剤は必ず希釈し、濃度に注意して使用すること。
- (2) 炎症又は易刺激性の部位(粘膜、陰股部等)に使用するには、正常の部位に使用するよりも低濃度とすることが望ましい。
- (3) 深い創傷又は眼に使用する場合は希釈液としては、注射用水か滅菌精製水を用い、水道水や精製水を用いないこと。

### 2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

| 種類               | 頻度       | 頻度不明 |
|------------------|----------|------|
| 過敏症 <sup>※</sup> | 発疹、そう痒感等 |      |

注) このような症状があらわれた場合には、使用を中止すること。

### 3. 臨床検査結果に及ぼす影響

本剤で消毒したカテーテルで採取した尿は、スルホサリチル酸法による尿蛋白試験で偽陽性を示すことがある。

### 4. 適用上の注意

#### (1) 人体

- 1) 投与経路：経口投与しないこと。  
洗眼には使用しないこと。

#### (2) 使用時

- ア. 原液又は濃厚液が眼に入らないよう注意すること。  
眼に入った場合には水でよく洗い流すこと。
- イ. 濃厚液の使用により、皮膚・粘膜の刺激症状があらわれることがあるので、注意すること。
- ウ. 粘膜、創傷面又は炎症部位に長期間又は広範囲に使用しないこと(全身吸収による筋脱力を起こすおそれがある)。
- エ. 密封包帯、ギプス包帯、バックに使用すると刺激症状があらわれることがあるので、使用しないことが望ましい。

#### (2) その他

##### 1) 調製方法

ア. 繊維、布(綿、ガーゼ、ウール、レーヨン等)は本剤の成分であるベンザルコニウム塩化物を吸着するので、これらを溶液に浸漬して用いる場合には、有効濃度以下とならないように注意すること。

イ. 希釈液として塩類含量の多い水または硬水を用いないこと。

### 2) 使用時

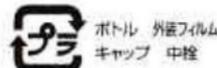
- ア. 血清、膿汁等の有機性物質は殺菌作用を減弱させるので、これらが付着している医療機器等に用いる場合は、十分に洗い落としてから使用すること。
- イ. 石けん類は本剤の殺菌作用を減弱させるので、石けん分を洗い落としてから使用すること。
- ウ. 皮膚消毒に使用する綿球、ガーゼ等は滅菌保存し、使用時に溶液に浸すこと。

### 3) 器具等材質

- ア. 合成ゴム製品、合成樹脂製品、光学器具、鏡器具、塗装カテーテル等への使用は避けることが望ましい。
- イ. 金属器具を長時間浸漬する必要がある場合は、腐食を防止するためにベンザルコニウム塩化物0.1% (本剤の100倍) 溶液に0.5～1.0%の亜硝酸ナトリウムを添加すること。
- ウ. 皮革製品の消毒に使用すると、変質させることがあるので、使用しないこと。

## 【薬効薬理】

本剤は使用濃度においてグラム陽性菌、グラム陰性菌、真菌類等には有効であるが、細菌の芽胞(炭疽菌、破傷風菌等)、結核菌及び大部分のウイルスに対する効果は期待できない。



製造番号

使用期限